

4. 認知症の種類と症状

①認知症の種類

A: アルツハイマー型認知症

タンパク質のゴミが脳にたまり、神経細胞が壊れると発症します。比較的早い段階から記憶障害や日にち、場所の感覚が失われ、不安、うつ、妄想などが出やすくなります。



B: 脳血管性認知症

脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化などにより、脳の神経細胞が壊れることで発症します。意欲が低下したり、複雑な作業が苦手になります。



C: レビー小体型認知症

歩行障害や幻視が主な症状で、症状の変動が大きいのが特徴です。



D: 前頭側頭型認知症(ピック病など)

我慢したり思いやりなどの社会性を失うため、周りには人格や性格が変わったように映ります。比較的、記憶は保たれている場合が多いです。

その他

脳腫瘍や慢性硬膜下血腫、甲状腺の病気、栄養失調などでも認知症の症状が現れます。これらは原因を治療することで改善することが期待できます。

AとBなど二つ以上の認知症からなる「混合型」の認知症もあります。

②認知症の症状



中核症状

「記憶障害」

脳は、目や耳などから入るたくさんの情報のうち、必要があるものや関心があるものは一時的に蓄え、大事な情報は忘れないように長期保存するようにできています。しかし、脳の一部の細胞が壊れ、そのはたらきを失うと、覚えられない、すぐ忘れるといった記憶障害が起こってしまいます。
→病院の受診日時や約束を忘れてしまう。
→家族や友だちの名前を思い出せない。



「見当識障害」

今がいつ(時間、年月日、季節)で、ここがどこ(場所)という、自分が今、置かれている状況を把握できなくなり、接している相手がだれ(自分と他人との関係性)なのかも分からなくなってしまいます。

- 「いつ」が分からなくなると、今が何時なのか分からなくなり、予定通りの行動が難しくなります。
- 「どこ」が分からなくなると、外出先で道に迷ったり、自分の家のトイレの場所が分からなくなります。
- 「だれ」が分からなくなると、自分と家族との関係や、家族が過去に亡くなったという事実も分からなくなります。

「理解・判断力の障がい」

理解や情報の処理に時間がかかり、一度に2つ以上のことを言われたり、早口だと理解することが難しくなります。いつもと違う出来事が起こると対応できず、混乱してしまいます。
→銀行のATMや自動販売機の使い方を忘れてしまう。
→料理の途中で来客があり、鍋を焦がしてしまった。
→夫の入院で混乱し、手続きや持ち物の準備ができない。



「実行機能障害」

物事を行う時に計画を立て、順序立てて効率良く行うことが難しくなります。
→スーパーでみそ汁を作る材料を買うが、そのことを忘れ冷蔵庫を開け目についた他の材料で味噌汁を作ってしまう。
冷蔵庫の中身を覚えておらず、同じ食材がたくさん。奥には腐ったものも…。

行動・心理症状

記憶障害などの中核症状がもとになり、ご本人の性格や素質、周囲の環境や人間関係などが影響して出現する症状。

「幻覚(幻視・幻聴)」

→実在しない音や声聞こえる幻聴や実在しないものが見える幻視など。

「外出中に道に迷う」

→本人なりの理由で外出したが、道が分からなくなったり、外出の目的を忘れてしまい道に迷う。



「うつ状態」

→気分が沈む。
→何に対しても興味を示さない。

「暴言・暴力」

→大きな声をあげる。
→暴力をふるう。



「不潔・興奮」

→落ち着かない。
→イライラしやすい。

「妄想」

→ものを盗られたと訴えるなど、現実にはあり得ないことを真実と信じ込む。

「不安・焦燥」

→不安になり、日常のささいなことを心配する。



「せん妄」

→一時的に注意力や思考力が低下する状態。
→幻覚、暴言・暴力がみられることがある。

「不潔行為」

→主に排泄に関連した行動がうまくできず起こり、便いじりなどがある。

「介護抵抗」

→介護者に反抗的な態度を示し拒否する。